

2012年4月27日  
東京ガス株式会社

2012年3月期 本決算説明会

主なQ & A

【扇島パワーステーション3号機】

Q1：「扇島パワーステーション3号機について検討に着手」とのことだが、この先具体的な設備投資判断を行うためには、どのような条件が整うことが必要となるのか。

A1：具体的な設備投資を判断するためには、発電所の建設や系統への接続に関する設備投資額に加えて、今後の系統電源構成との比較における当社発電所の競争力について検討する必要がある。そうした変化要因の前提においても、ある程度の採算性が確保できるとの判断から具体的な検討に着手したところ。今後は採算性に関する詳細な検討を進め、予期せぬリスク要因を考慮しつつ、設備投資判断を本年秋頃を目途に行いたい。

【コーブポイントLNGプロジェクト】

Q2：本日発表されたコーブポイントLNGプロジェクトについて、約230万トンと報道される液化加工契約分は、全量東京ガスが引き取るのか。あるいはトレーディング等を検討しているのか。ドミニオン社との契約においてどのようなことが決まっているのか。

A2：決まっていることは、住友商事と共同で、コーブポイントLNGプロジェクトの事業主であるドミニオン社との協議を進めるということ。具体的な契約条件等は今後の協議の中で議論される。当社としては北米市場に足場を築き、原料調達の高多様性を高めていきたいと考えており、最終的には、日本着のLNG価格を引き下げることに結び付けたい。

【工業用ガス需要および千葉鹿島ライン】

Q3：今年度の工業用ガス需要をどのように見ているのか。また、本年3月に開通した千葉鹿島ラインによる増量効果は、どの程度寄与するものと考えているのか。

A3：電力事業スキームの変更により、表面的には工業用需要は対前年で減少するが、その影響を除けば、工業用需要全体では昨年度を上回るものと見ている。ただし、東日本大震災後の電力需給逼迫を受けて高稼働が続いた発電用需要については、今年度も引き続き高い稼働率で推移するものと見ているが、昨年度との比較においてはやや落ち着いた水準ではないかと考えている。

千葉鹿島ラインによる増量効果は年間約3億 $m^3$ を見込んでいる。鹿島臨海工業地域の需要に加え、6月に開通予定の鹿島臨海ラインの需要も寄与する。

以上